



(株)ピータイム(沖縄県那覇市・木村光一朗社長)は、県内に10店舗の遊技場を経営する伸び盛りの企業。

その経営スタイルは、若者が多い本島では店舗に先進的な都会的なデザインを取り入れ、新しい遊技場のイメージを演出する一方で、離島や郊外店では、高齢者のためのアットホームな店造りを目指すなど、地域密着型の遊技場経営を追求しています。

それだけに、地域社会の人々との交流については、ことのほか熱心です。

まずは児童福祉施設などへの支援活動から。「ピータイムふてんま

店」では、宜野湾児童デイサービス事業所「愛育園」へ、景品入替の際に不要となった文房具などの寄付を。

(上) 童屋店もクリスマスのプレゼント  
(下) FC琉球メンバーと清掃活動



ピータイムから頂きました遊技台はしっかりと活用させて頂きます」と、感謝の言葉をいただきました。

地域のスポーツ活動への貢献にも力を入れていきます。今年から地元サッカーチーム「FC琉球」のスポンサーになりました。今年から、元日本代表の我那覇選手が加わりさらにパワーアップ、JFLからJリーグ入りを目指して、頑張っています。そんなFC琉球のメンバーとは一緒に清掃活動などにも汗を流しています。

### 「ゆいまーる」の精神で

広い意味での社会貢献にも力を入れています。骨髄バンク募金です。09年から各店に募金箱を設置し、集めたお金を、「命のチャンス募金」として贈呈しました。実は、ピータイムの店舗で働いていたスタッフの1人が白血病で倒れ、骨髄移植を待つていましたが、治療途中で亡くなりました。それをきっかけ

に、運動が始まりました。グループの社員の「骨髄バンクドナー登録」にも積極的です。実際、すでに骨髄提供を行った社員もいるそうです。

東日本大震災では、日本赤十字社や、県内に避難されてきている被災者への支援として、お客様からの募金と、ピータイムグループからのを合わせて、那覇市に300万円を、宮古島市、石垣市へはそれぞれ100万円、合計500万円を寄付しました。

「ゆいまーる(いーまーる)」は「結(ゆ)い」を意味する沖縄の方言。もとは労働交換を意味する言葉でしたが、現在では「助け合い」という意味で使われています。相互扶助と平等の精神。ピータイムの社会貢献事業には、この精神が生きています。ピータイムでは「自らも地域の一員として、これからも「ゆいまーる」の精神で地域貢献に努めていきたい」(担当者)としています。



(上) 南島会への遊技台贈呈式、  
(下) 那覇市へ東日本大震災被災者への寄付金贈呈